

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式1

提出日 令和 8年 3月 8日

派遣大会・事業名	第8回全日本社会人バスケットボール選手権大会
派遣期間	令和8年2月21(土)・22日(日)
報告者	松本祐大
派遣先	京都府京都市

派遣スケジュール

2月21日	男女1回戦
2月22日	男女2回戦・準々決勝
月 日	

大会参加審判員(本部・指名審判員のみ記載)

本部審判員	JSB:久保裕紀 尾形美樹 宇田津浩史 本部:伊藤睦哲 古畑咲 唐川幸 西和馬 ※敬称略
指名審判員	—

審判会議 ミーティング内容(共通事項・強調された点など)

<p>挨拶:JBA審判委員長 前田喜庸氏・JSB審判委員長 久保裕紀氏 研修内容:①メカニクス/唐川幸 氏・西和馬 氏 ②プレーコーリング/伊藤睦哲氏 ③コミュニケーション/古畑咲氏</p> <p>①メカニクス</p> <p>1.ローテーションについて→現在の方針として、積極的にローテーションを行っていく リード:・プレーの展開やローテーションのフェーズに合わせて積極的なローテーションを行う ・動きながらの判定は不安定となるので、クローズダウンやスキャンザペイントを行うことにより精度が上がる センター:・ミッドレーンを超えたボールのあるマッチアップをチェックインする(センター側のオフボールのプレイヤーからも目を離さない) ・リードのローテーションが完了し、判定の準備が整うまでプレーにステイする トレイル:・ボールがミッドレーンを超えた際にローテーションの準備をする ・ボールがミッドレーンを超えてからセンターがボールのあるマッチアップをチェックインしたことを確認する ・リードのローテーションに合わせて、センターポジションへ降りる、マッチアップが戻ってくることも意識しつつ、目線をオフボールへ当てる</p> <p>ローテーションを行わない場合</p> <p>・ボールがウィークサイドに移動した後すぐに、ショットやドライブが起きた場合 →ローテーションを始めた後でショットやドライブが起こった場合において、両足がミッドラインを越えている場合は、ローテーションを完成させ、超えていない場合は、バックペダルを踏む ・ゲームクロックやショットクロックの残り時間が少ない場合、フロアの状況に応じて、ローテーションを起こさず、フィニッシュに備えて安定したトライアングルを形成することが望ましい場合もローテーションは行わない</p> <p>2.ヘルプディフェンダー</p> <p>・最終的にコンタクト起きた「エリア」でまずプライマリを判断、ケースによってはそのプライマリが判定下することが難しい場合に備える ・そのヘルプディフェンダーを長く見ていたレフェリーがセカンダリとして判定にアテンドする準備を怠らない</p> <p>②プレーコーリング</p> <p>1.ペイシエントホイッスル</p> <p>・タフでフィジカルなプレーを引き出すためにはマージナル/イリーガルの判定が重要である ・スタート、ディペロップ、フィニッシュまで確認し、ペイシエント・ホイッスルを行っていく</p> <p>2.イミディエイト・ホイッスル</p> <p>・怪れにつながるもの、UF(C2)系、インテンシティが高まるケース、イリーガルシリンダー、掴む・押す・抱える(IUH/FOMの慢)、タクティカル(リバウンドやトランジション、L2Mで時間を止める目的など)、ショットに対する振り下ろしなどはイミディエイト・ホイッスルにてコールを行う</p> <p>③コミュニケーション</p> <p>1.審判としてのコミュニケーションとは→ジェスチャー(決まったシグナル)、ホイッスル、言葉(会話)がコミュニケーションとしてのツールとして存在する 2.建設的なコミュニケーションの手順・要件を聞く→事実を確認する→説明する→対応策を示す→気持ちを伝える ※こちらの思いだけを一方的に伝えるのではなく、まずは相手の話を聞くことが重要である 3.コミュニケーションを取る上で、審判として大切なこと ・ルールに基づく公正、迅速、冷静な判断 ・選手・チームへのリスペクト ・競技規則を深く理解し、正確な位置取り(ポジショニング)から熱くなる試合を円滑に進行させ、信頼される技術を磨くこと</p>

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8年 3月 8日

担当試合

試合日	2月21日(土)
回戦 カード 点数	男子1回戦 10:00開始 Red Monsters(鹿児島) 90 - 68 GROUSES.NET(富山)
会場	島津アリーナ京都
審判員名	CC:田中優志(滋賀) U1:松本祐大 U2:吉川拓馬(京都)
審判員主任名	伊藤 睦哲(本部)
試合振り返り	

PGCでは、CCを中心にメカニクスとプライマリーの確認を行った。特にプライマリーエリアに対しては細かくポジションアジャストを行い、それぞれが1試合を通して判定をし続けていきましたと共有された。加えて自身としては、今大会のテーマであるベシックなメカニクス(リードで積極的なローテーションを行うこと)とコミュニケーションについてチャレンジする意識で臨んだ。試合は序盤よりRed Monsterが主導権を握り、徐々に点差が離れていった。クルーとしてはPGCの通りそれぞれのレフェリーがプライマリーを判定し続け、必要なタイミングでコールが入っていたと考えており、試合後のフィードバックでは、3人それぞれが下した判定は良く、特に良いノーコールが多かったと講評をいただいた。リードのローテーションについてのタイミングもスムーズに行うことができた。コミュニケーションについてはヘッドコーチや選手と積極的に行ったつもりではあるが、コミュニケーションを取るが余り、クルーの判定に対して話しかけてくる場面が普段より多かったと感じた。ただ単に話せば良いという訳ではなく、必要な時にベストなコミュニケーションを取ることができるよう、研究をしていきたい。

担当試合

試合日	2月22日(日)
回戦 カード 点数	女子2回戦 10:00開始 ひらまつ病院(佐賀) 82 - 37 P.YES.P(京都)
会場	京都市体育館
審判員名	CC:松本祐大 U1:篠田諒(島根) U2:藤江慶太(和歌山)
審判員主任名	尾形美樹(JSB)
試合振り返り	

PGCではメカニクスとプライマリーの確認を行うと共に、今大会のテーマであるメカニクス(リードの積極的なローテーション)、プレーコーリング(どちらにも同じものをコールする、留学生もいるチームなのでペイントを整理していく)、コミュニケーションをテーマとして、クルーで取り組んでいくことを共有し、加えて自身としてはCCとして判定でクルーを引っ張っていくことを目標に臨んだ。試合は、自力で勝るひらまつ病院がインサイドを中心に得点を重ね、序盤よりリードを広げる展開となり、対するP.TES.Pはなんとかくらいつこうと強度の高いディフェンスで対抗し、終盤まで点差以上の激しい試合となった。フィードバックではクルーとして3人で1試合判定をし続け、全体としてプレーコーリングについて何も言うことがないくらいとても良かったと講評をいただいた。また個人的にはコールした時の状況により、笛の長さ、強さ、見せ方を工夫できるとプレゼンテーションがより良くなるとアドバイスをいただいた。プレゼンテーションは以前より自身の課題ではあるが、今一度より良いプレゼンテーションを求めて勉強を続けていきたい。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

今大会では、初日に男子1回戦、2日目に女子2回戦を担当させていただきました。参加するにあたり、事前講習会でのテーマである、メカニクス(リードの積極的なローテーション)、プレーコーリング、コミュニケーションにチャレンジしていこうと決め各試合に臨みました。その中でメカニクスについてクルーそれぞれが積極的なローテーションをする意識が高い余り、メカニクスが崩れそうになった場面がありました。積極的にローテーションを行うことは大前提とし、PGCにてローテーションのフェーズをより細かく確認(共有)することでスムーズなローテーションや良いメカニクスに繋がると感じました。また、自身がセンターの際にリードとダブルコールになりセンタープライマリーにも関わらずリードがレポートを行ったケースがありました。プライマリーについて事前に共有はしていたものの自身の理解もまだ不足していると反省をしました。プレーコーリング、コミュニケーションについてはチャレンジし続けることができたと考えています。また、2日目の試合終了後、敗戦チームのキャプテンと挨拶と交わした際に「お陰で最後まで楽しく試合ができました」とお声掛けいただき、嬉しさの反面、改めて我々は選手、チームのために審判をしているのだと強く実感する事ができました。

大会、事前講習会を開催するにあたり、準備よりご尽力いただきました地元審判員の皆様、JSB、本部の皆様、派遣に際しご配慮いただきました梶審判長はじめ栃木県の皆様に感謝を申し上げ、派遣報告とさせていただきます。